

長谷川 望 牧師

- *教会の目的で大切なものは2つ。「礼拝」と「宣教」である。礼拝しない教会があるとすれば、それは教会と呼べない。唯一まことの神を共に礼拝することは、教会が教会たる基本的な目的である。もう一つの目的は「宣教」である。イエス・キリストの福音を伝えることは教会の「使命」として重要である。そして、礼拝と宣教は密接に結びついている。礼拝の中心は、み言葉を伝えることであり、伝えられて信じた人たちが集まって礼拝をする。そういう循環である。他の「教育」「奉仕」「交わり」も大切な教会の目的であるが、これらは先の二つの大目的を支えるサブ的な目的といえるだろう。
- *神は、すべての人が救われて、真理を知るようになることを望んでおられます。（1テモテ2：4）パウロは愛弟子テモテに、すべての人のために祈れと勧めている。それは王のように高い地位にある人であっても、である。私たちは、自分の勝手な思いで、あの人が救われるはずがない、とか、あの人は無理だとか決めつけていないだろうか。神はどんな人でも、すべての人が救われることを望んでおられるのである。信仰と宣教についての真髄はローマ10：9～15にある。「聞いたことのない方がどのようにして信じるのでしょうか」
- *救われた者は「真理を知るようになる」という。「真理」とは「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです」と言われたように、主イエスそのものが「真理」であることは間違いがないが、さらに具体的に次に説明がある。「神は唯一です。神と人との間の仲介者も唯一であり、それは人としてのキリスト・イエスです。キリストは、すべての人の贖いの代価として、ご自分を与えてくださいました。これは、定められた時になされた証しです。」（1テモテ2：5～6）私たちの罪の身代わりになって十字架にかかってくださった方が、父なる神と私たちとの唯一の仲保者である。「礼拝」を重んじ、「宣教」する教会としてこれからも神のみこころにかなう教会となるよう祈り、実行していきたい。

